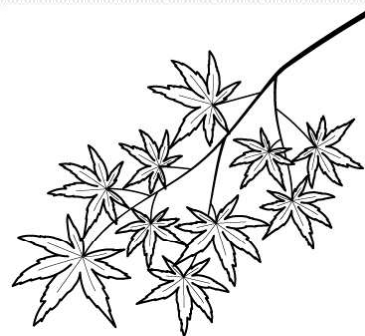
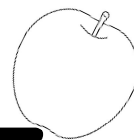
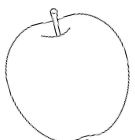


令和3年度



自治振興区



活動促進補助金



実績報告書



1 自治振興区名	高野地域自治振興区連絡協議会
2 事業名	高野地域関係人口創出プロジェクト
3 事業費	1,697,400 円 (うち補助金 1,357,000 円, 自主財源 340,400 円)
4 事業内容	

○移住・交流ポータルサイト「たかの移住サイト」の構築

- ・子育て応援マガジンの編集者等を招き、作成委員と一緒にフィールドワークを行い、魅力的な人、風景、暮らし、産業、伝統文化、観光、地域づくりなどの資源や、地域の価値や魅力を洗い出した。
  - ・サイトイメージ決定後、取材、記事作成、動画コンテンツを制作し、サイトを構築した。
  - ・サイトは、ブログ形式で簡単に更新できる機能を持たせ、パソコン、スマートフォンなど、デバイスごとに異なる画面サイズに対して、ホームページを見やすく使いやすい最適な状態にする「レスポンシブウェブデザイン」を採用した。
  - ・当サイトのコンテンツは、高野のこと(高野ぐらし、概要、まちづくり)、遊んでみる(観光)、暮らしてみる(移住支援、物件情報)、インタビュー、高野人、お知らせ、たかのいずむ、お問い合わせ、リンクとし、自然・人・産業など町の資源全てを活用した情報発信となっている。
  - ・当サイトの認知度向上および当サイトへ誘導するため、WEBマガジンへ広告を掲載した。
- ※新型コロナウイルス感染拡大により、当初計画していた高野暮らしの体験交流型のモニターツアーは中止した。
- ・当サイトの運営は、情報発信チーム及び住民協力者で構成する「ホームページ運営部」で行っている。

5 効果・変化

- ・当サイトの構築で、高野地域の魅力が見える化し、また地域の魅力を再発見するなど、地域住民のシビックプライドが醸成された。
- ・現地取材などを通して多くの住民に当該事業及び高野地域創生事業の周知が可能となり、取り組みに対する歓迎の意見が多く寄せられた。過疎化対策に対する住民意識の醸成が徐々に拡大している。
- ・高野地域の魅力を知っていただける基盤ができた。
- ・地域住民との交流により、再訪や農産物の購入など、高野地域に対して応援・協力してくれるファンが増えていく。
- ・今後は、地域おこし協力隊制度を活用し、新たな魅力の掘り起こし、発信の強化に努めていきたい。

6 活動写真

現地取材



ホームページ更新の勉強会



サイト名称：高野移住定住サイト

アドレス：<https://takano-ijuusite.com/>



1 自治振興区名	庄原市庄原自治振興区
2 事業名	花と緑があふれるまちづくり事業
3 事業費	2,398,455円（うち補助金1,557,000円, 自主財源841,455円）
4 事業内容	まちなかの中心的な街路に季節に応じた花を植栽したプランターの設置

まちなかの中心的な街路に時期(季節)に応じた花を植栽したプランターを300個設置し、個人・組織での維持管理を行い「花でにぎわうまち」をコンセプトに「花と緑あふれる美しい景観づくり」に取り組み、地域のにぎわいづくりと活性化につなげる。

(基本目標)

- ① 花のある景観によるにぎわいづくり
- ② 花と触れ合い・交流によるにぎわいづくり
- ③ 花をとおした人材育成によるにぎわいづくり

(初年度の事業内容)

- ①本区（自治会）が母体となり、継続的な事業となるよう地域内の個人・機関団体が構成する組織「庄原花のまち応援隊」（7機関団体）を結成し、継続的な事業を行う。
- ②子ども（児童生徒学生）達が地域と関わり実践できる場を作るため、次年度に向けて「植え付け・維持管理」の一部に関わる体制づくりを行う。（小中学校・高校・大学との連携）
- ③まちなかの中心的な街路にプランターを設置する箇所の選定（協力依頼を含む）
- ④ 次年度以降も活用するプランターカバー(枠)の作成（150基分）
- ⑤ 目的達成に向けて、設置させていただく地域のみなさんへ継続的な協力支援をお願いする。

5 効果・変化	
<ol style="list-style-type: none"> <li>① 本区が主体となり地域内の7団体の参画により「庄原花のまち応援隊」を組織し計画・実践の基盤づくりができた。</li> <li>② 地域内の小中学校・高校・特別支援学校・大学の児童生徒学生が積極的に参加いただき、地域と学校の連携づくりができた。</li> <li>③ 設置区域の個人・商店・企業が事業の目的に賛同いただき、日常の積極的なプランターの維持管理・資金的支援の協力をいただき事業継続の基盤づくりができた。</li> <li>④ プランターの設置により、まちなかが花で華やかとなり内外のみなさんから多くの好評をいただいた。</li> </ol>	

6 活動写真	
--------	--



プランター設置風景



庄原小学校植栽風景



永末小学校植栽風景



庄原中学校植栽風景



庄原花のまち応援隊植栽風景

1 自治振興区名	帝釈自治振興区
2 事業名	帝釈峡遺跡めぐり事業
3 事業費	1,668,298円（うち補助金 1,334,000円, 自主財源 334,298円）
4 事業内容	モニュメント設置、古代人の里リーフレット作成
<ul style="list-style-type: none"> <li>・帝釈峡遊歩道入口に帝釈峡遺跡群発掘60周年記念モニュメントを設置し、遺跡群に関する文書を刻むことにより、地域住民・観光客に重要な遺跡の存在を伝えた。</li> <li>・3月28日に、モニュメント除幕式を挙行了した。</li> <li>・時悠館と共催で、帝釈峡遺跡群発見60周年記念講演会及び講座を4回にわたりオンライン等で開催し、帝釈峡遺跡群の認識を地域の皆さんと共に深めることができた。</li> <li>・遺跡の看板や周辺の清掃活動をし遺跡への関心を深め、定期的な清掃活動を心がけるようにした。</li> <li>・帝釈自治振興センターにより、帝釈峡遺跡群発見及び発掘に関する歴史を広報し、より一層、認識を深めることができた。</li> <li>・作成したリーフレットは遺跡巡り行事をするときや講演会等を開催する際に配布、また時悠館や生涯学習課・学校・図書館等に配布し、活用してもらうなど、認識を深めるのに利用している。</li> </ul>	
5 効果・変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モニュメントを設置することにより、より一層遺跡に対しての認識を広めることができた。観光客もモニュメントの前で立ち止まり、見ておられるので、関心の深さを覗うことができる。</li> <li>・リーフレットは講演会の際に配布、時悠館や生涯学習課・図書館・学校等に配布し、活用してもらうなど、認識を深めるのに利用している。</li> <li>・ボランティアガイドと共に寄倉遺跡と馬渡遺跡をめぐる事業を開催し、縄文人が生活した様子を想像することができた。また、縄文体験親子デイキャンプを開催し、釣り針づくりと魚釣り体験、縄文服を着て時悠館見学をした。縄文人の暮らしを体験し興味をもたせることができた。</li> <li>・帝釈峡遺跡群発掘60周年記念シンポジウムを開催し160名の参加があり、より一層帝釈峡遺跡群の重要性を認識し、地元以外にも発信することができた。</li> </ul>
6 活動写真	    

1 自治振興区名	庄原市比和自治振興区
2 事業名	地域福祉「比和まるごと家族サロン」事業
3 事業費	539,220円（うち補助金431,000円, 自主財源108,220円）
4 事業内容	<p>1 機材の購入（食品乾燥機・真空包装機・蒸留器・カセットコンロ・アイスクリームメーカー）</p> <p>2 ひきこもり当事者の就労支援、高齢者の生きがいがつくり（比和の特産物を使った活動）</p> <p>a クロモジを使った体験活動、そばを使った体験活動、その他の特産品を使った体験活動</p> <p>b 特産品づくり（クロモジ染、クロモジ茶、そばクッキー、そばパンナコッタ、そばアイスなど）</p> <p>c 山野草や余剰野菜の加工と保存（栄養指導や孤食予防サロンなどで活用）</p> <p>d 体験活動の準備（クロモジ採取やカット、使用器具の準備・片付けなど）</p> <p>3 食品の製造と販売1（農家カフェひばーばの縁側と連携した就労支援、支援者との交流）</p> <p>e 農家カフェひばーばの縁側でのそば茶づくり（製造・販売者 農家カフェひばーばの縁側）</p> <p>4 食品の製造と販売2（就労支援であることを理解してもらいサロンなどで実費提供、支援者との交流）</p> <p>f 比和自治振興センターでそばクッキーづくり、その他そばやカボチャを使ったお菓子づくり</p> <p>5 地域サロンや他団体と連携した高齢者の生きがいがつくり</p> <p>g ひきこもり当事者の就労支援活動の紹介とボランティアなどの協力依頼</p> <p>h JA女性部や地域の加工所と連携して地産地消レシピづくり（地域サロンなどで紹介）やイベント実施</p> <p>6 地域福祉「比和まるごと家族サロン」（交流・見守り・孤食予防・栄養指導などのサロンの実施）</p> <p>i コロナウイルス感染症予防のため、ふれあいセンター周辺の高齢者を対象に少人数で実施している。</p> <p>j 町民を中心部へ集めたサロン活動が難しいので、他団体と連携して地域へ出向いて活動を行なっている。</p>
5 効果・変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>ひきこもり当事者の就労の場や就労の回数が増え支援者との交流が活発になった。人との交流に慣れることで、町中で買い物をする姿を見ることが多くなっている。他の事業所の活動に自主的に参加するなど当事者の社会参加に貢献している。2020年に月4回程度の就労が現在月7回程度になっている。就労場所も1ヶ所が3ヶ所になった。更に月2回程度増やせるようにそば茶の販売について検討中である。</li> <li>ひきこもり当事者の就労支援についての地域の理解が広がり、サロンなどでのそば茶やそば茶クッキーなどの提供を楽しみにしている人も多い。</li> <li>コロナウイルスの影響で町内全体から人を1か所に集めるサロン活動が難しいので、地域サロンに出かけて体験活動を実施している。「出掛けて行くのが難しいので来てもらえるのは嬉しい」と好評である。</li> </ul>
6 活動写真	<p>The photographs show: a) A group of people sitting at tables in a community room; b) A person pouring liquid into a large pot; c) A person packaging food items; d) A person sitting at a table with green herbs; e) A person working at a table with food items; f) A display of packaged products; g) A person working at a table; h) A group of people sitting at tables; i) A person working at a table; j) A group of people sitting at tables.</p>